

熱処理で日本進出

ドイツ・ポーランド 10年で加工業者10社買収

熱処理加工で世界トップの英ボデイコート・インターナショナルは2日、ボデイコート・ジャパン(名古屋市区)を設立し、日本に進出したと発表した。日本で営業活動を強化するほか、自動車、航空機産業が集積す

る名古屋周辺で熱処理専門業者を買収し、受託加工先の確保を急ぐ。日本貿易振興機構(ジエトロ)の協力と英国政府の海外市場参入支援サービスを受けて日本に進出した。資本金は1000万円、英本社の全額

出資。社長にはシュリアン・ベイショア氏が就いた。ユーザー企業を掘り起し「1000社を超える顧客企業を確保する」(ジョン・ハバード、英本社CEO)のが当面の目標。日本市場でシェア10%、売上高約50億円

を目指す。顧客から2500平方メートルの地域で受託加工先を確保する。2年以内に熱処理工場1社を買収する。今後10年で熱処理加工業者10社を買収する(同)。また、顧客サービス強化の一環として、日本国内に順次、材料試験施設を設置する。

ボデイコート・インターナショナルは世界35カ国に183の熱処理工場、120の材料試験施設を持つ。熱処理加工のほか、HIP(熱間静水圧プレス)処理、金属溶解、物理気相成長(PVD)・化学気相成長(CVD)処理などの特殊表面処理や材料物性試験評価などで07年度の売上高は約1420億円。

D)・化学気相成長(CVD)処理などの特殊表面処理や材料物性試験評価などで07年度の売上高は約1420億円。